

# 令和5年度 学校評価報告書

学校番号( 中36 ) 長崎市立( 野母崎中 )学校

## 1 教育目標

自ら学び、心身ともにたくましく、人間性豊かな実践力のある児童生徒の育成  
 (教育理念) ~総がかりで、夢を抱き、志を育み、未来を拓く小中一貫教育~  
 (校訓) 進取(進んで)・調和(共に)・創造(創る)

## 2 学校経営方針

- (1) 個を伸ばす集団(仲間)づくり
- (2) 命の教育・人権教育を根底においた基本的生活習慣の確立
- (3) 子どもをど真ん中に据え、総がかりで支え、感動のある学校
- (4) 夢・憧れ・志を育む学校
- (5) 信頼される学校
- (6) 保護者・地域等と連携した学校(コミュニティースクール)
- (7) 学力向上を図る学校(GIGAスクール構想の実現)
- (8) 特別支援教育の充実(個別最適な学び・協働的な学び)
- (9) 働き方改革は意識改革(働きがいのある職場)

## 3 重点目標

- (1) 基本的生活習慣の確立(あいさつ、はきものそろえ、「あ・は・は運動」の推進、体力の向上)
- (2) わかる授業、個に応じた授業の展開(一人一台パソコンの有効活用、小中一貫教育を生かした授業改善)
- (3) 保護者・地域との連携(コミュニティースクールの充実)
- (4) 働き方改革による教育の質の向上  
 (ノー残業デーの小中統一、C4thを活用した連絡会・会議の短縮、児童生徒の成長(頑張り)の共有)

## 4 自己評価

領域	項目	質問内容	アンケート結果			分析及び改善策
			(肯定的割合・%)			
			児童生徒	保護者	教職員	
学校経営	教育目標	教育目標を達成している	94	85	100	コロナ禍で休止していた行事や活動が再開し、活気を取り戻したこともあり、学校の雰囲気に対する肯定的評価が向上したと思われる。職員の業務改善については新たなアイデアが必要である。
	学校の雰囲気	明るく楽しい雰囲気である	96	87	100	
	組織運営	校務分掌は責任体制が明確で、適切に機能している			91	
	業務の改善	校務の縮減・効率化等、業務の改善を推進している			73	
心の教育	生活・生徒指導	ルールやマナーを身に付けている	92	87	82	小中一貫校として、中学校でも昨年度から「あはは運動」の認知度について回答を得ている。配付物への掲載やPTAでの周知により、保護者については昨年度より30ポイント以上向上したが生徒への周知が不足した。校則違反を指導することは少ないが、様々な場面での礼儀やマナーについて、経験が少なく指導の必要性を感じている。TPOに応じた言動を身につけることができるよう機会を捉えて丁寧に指導したい。
		挨拶をよくしている	94	77	91	
		「あ・は・は運動」を知っている	80	90	91	
		教職員は悩みや相談に親身に対応している	88	82	100	
	いじめ防止対策	学校はいじめ防止のための対策をとっている	88	78	91	
	人権教育	生命や人権を尊重しようとする心が育っている	96	82	91	
	平和教育	平和の大切さを感じ、その思いを発信しようとしている	90	74	100	
	特別支援教育	学校は教育的ニーズに応じた教育を行っている	88	79	91	
確かな学力	特色ある学校づくり	伝統や校風、地域の実態に即した教育を行っている	92	90	91	
	学習指導・教育課程	わかりやすい授業を行っている	82	62	91	
		家庭学習の習慣が身に付いている	74	62	50	
	キャリア教育	将来の自立に向けて適切に指導している	96	70	100	
長崎のまちや自分の住んでいる地域が好きである		90				

健やかな体	保健・衛生	衛生管理に努め、健康に関する教育を行っている	96	90	100	ほとんどの生徒が、週2回の早朝ランニングに自主的に参加しており、体育の授業や行事等で体を動かすことに積極的に取り組んでいる。 一方、家庭でSNSやゲームなどに費やす時間が増え、生活リズムの乱れが結果に現れている。
	体力向上	早寝・早起き・朝ごはん(基本的生活習慣)が身に付いている	76	67	73	
		体力向上に努めている	74	79	100	
	食育	食に関する教育活動を行っている	98	87	100	
信頼される学校	安全管理	児童生徒の安全に気を配っている	96	92	100	PTAや学級懇談の運営や進行のしかたについて、役員と連携を図り内容を充実させて、参加率を向上させる必要がある。 校内研修では、ICTをはじめとして職員のニーズに応じた研修や、一人一回研究授業を実践し充実していた。
	情報提供	学校の状況は通信やHP等で知ることができる	94	92	100	
	PTA・地域との連携	学校はPTAや地域との連携がとれている	94	74	100	
	職員資質向上	研修が充実し、資質が向上している			91	
教育環境	環境整備	教育環境が充実し、整備されている	94	90	100	修理が必要な箇所は若干あるが、施設は充実しており、恵まれた環境で学習活動に取り組むことができている。
	職場環境	学校は働きやすい職場づくりに積極的に取り組んでいる			91	

## 5 自己評価のまとめ(成果・課題・対策等)

### <成果>

○小中一貫校として、9年間の見通しや小中連携を意識しながら一人一人の生徒に全職員で丁寧に対応できている。  
○総合的な学習の時間に「のもぎき学」として、学年の発達段階に応じたふさと学習を継続・実践していることで、地域を大切にする気持ちが向上している。

### <課題>

●校務の効率化や業務の改善については、偏りが無いかを見直したり、個人的な意識改革をしたりする必要がある。  
●ゲームやSNSの長時間利用が、家庭学習や就寝時間に影響し、基本的な生活習慣の乱れに繋がっている。  
●家庭学習については昨年度よりやや向上したが依然として職員・保護者の評価は厳しい。わかりやすい授業に対する生徒の評価からも、授業の内容が十分理解できていない生徒がいることがわかる。わかる授業を意識して授業改善に取り組み、個別最適化学習や補充学習をさらに充実させる必要がある。

## 6 学校関係者評価

### <成果>

○学校は地域に開かれていて職員は地域に協力的である。また、地域も学校に協力的である。  
○児童生徒のあいさつがよくできていると、地域の声が挙がっている。  
○学校の教育活動を参観すると、キャリア教育は十分に行われている印象である。  
○児童生徒が穏やかで優しい。

### <課題>

●児童生徒が地域行事参加に消極的である。  
●児童生徒のあいさつが物足りないという地域もある。  
●基本的な生活習慣や学習習慣の定着は家庭の責任が大きい。地域と学校で啓発できればよい。  
●児童生徒に「夢に向かう」意識を定着させたいものである。

## 7 対策等の見直し(学校関係者評価を受けて)

・学校、家庭、地域で連携し、地域行事の参加に家庭が協力したり、部活動に支障がない形で参加できる環境を整えたりする必要がある。  
・学校での励行・指導、生徒会による生徒の自治的な取組に加え、挨拶の重要性を、地域での職場体験等のキャリア教育において身をもって学ばせる機会を設ける。  
・PTAや通信等で、SNSに関する注意や家庭での学習習慣について繰り返し啓発を行い、基本的な生活習慣の改善を、学校と家庭で協力して行う。  
・高校進学においては、地理的に通学時間・距離や経済的な問題が伴うが、様々な職業や上級学校の情報を収集し、妥協することなく、夢をもちその実現に向けて努力する気持ちを育むようにする。